

6. ブドウ「オーロラブラック」の盆前収穫技術（技術）			
[要約]			
「オーロラブラック」に生育促進処理（発芽促進処理、着果管理処理、ホルモン処理）を行うことで、トンネル作型での盆前収穫が可能である。			
研究室名	果樹研究室	連絡先	086-955-0276

[背景・ねらい]

岡山農試が育成した新品種ブドウ「オーロラブラック」は、無核栽培が可能で「ピオーネ」に比べて脱粒しにくく、着色しやすい特徴をもつ黒色ブドウとして注目され、県内への導入も進んでいる。この特徴を生かし盆前に収穫し有利に販売できる技術を確立する。

[成果の概要・特徴]

1. 発芽促進処理、着果管理技術、ホルモン処理技術を組み合わせた場合、無処理樹に比べて発芽開始は 10 日以上、発芽期は 5 日、満開期は 4 日、果粒軟化期は 4 日、成熟期は 7 日程度早まった。また盆前の果実品質も着色が良好で秀品率が高かった（表 1、2、図 1）。
2. 発芽促進剤処理ではシアナミド 1 % 液の 12 月処理に加えてメリット青 2 倍液を 1 月下旬に処理することで無処理樹に比べて発芽期は 3 日早くなった。ポリ被覆処理では処理期を早めて 3 月中旬に行うことで 4 月中旬被覆に比べて発芽期が 2 日早くなった（データ省略）。
3. 着果量が多いほど果粒軟化日からの成熟日数が長くなり成熟期が遅れた。また、1 果房重が大きい場合や着果量が多い場合には盆前の秀品率が低下した。550g 程度の果房重で着果量を 1600kg/10a 程度までとすれば盆前収穫が可能で秀品率も約 80% と高かった（表 3）。
4. ホルモン処理を 2 回行う場合には果粒肥大処理をフルメット 5 ppm で行った果実は、果粒肥大処理をジベレリン 25ppm で行った果実に比べて果粒重がやや小さいものの着色のすすみが 7 日程度早かった。満開期 1 回処理（フルメット 10ppm 加用ジベレリン 25ppm 液）の場合も前述の果粒肥大処理をジベレリン 25ppm で行った果実に比べて着色のすすみが 7 日程度早かった（データ省略）。

[成果の活用面・留意点]

1. 新作型ではトンネル作型の「ピオーネ」に比べて 10～14 日早く収穫できることから、適用地域は「ピオーネ」が 8 月中旬頃に成熟する地域である。
2. 発芽開始期が通常より 10 日程度早まるため、晩霜対策に留意する。
3. シアナミド処理時には防護具着用や飲酒の厳禁等、使用上の注意事項を厳守する。
4. 早採りに注意し、収穫に際しては食味を十分に確認して出荷を行う。

[具体的データ]

月 旬	12			1			2			3			4			5			6			7			8					
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
作業・生育期	シアナミド処理			メリット青処理						ポリ被覆			発芽期 (霜害注意)			満開期・GA処理			整房(550g/10a程度)			摘房(1600kg/10a程度)			果粒軟化期			収穫期 (食味確認)		

図1 オーロラブラックの盆前収穫を目指した作業の流れ

表1 オーロラブラックの生育促進処理が生育時期に及ぼす影響(平成17年)

	発芽期	満開期	果粒軟化期
オーロラブラック			
生育促進区	4月18日	5月27日	7月2日
対照区	4月23日	5月31日	7月6日
促進日数	+5	+4	+4
紫玉	4月23日	5月31日	6月30日
ピオーネ	4月28日	6月3日	7月13日

表2 オーロラブラックの生育促進処理が果実品質に及ぼす影響(平成17年)

区	果房 採取日	果房重 (g)	果粒重 (g)	糖度 Brix	酸含量 (g/100ml)	糖酸比	着色 CC	無核果粒率 (%)	着色 7以下 粒数/房	出荷規格割合		
										赤秀 (%)	青秀 (%)	優 (%)
生育促進区 ²	8.5	469	12.9	18.0	0.57	31.8	8.8	100	0.5	45	45	10
	8.12	482	13.1	18.4	0.46	40.4	9.1	100	0.0	40	60	0
	8.19	493	14.1	17.5	0.42	41.8	9.5	96	0.0	90	10	0
	8.26	494	12.9	18.3	0.36	50.9	8.5	100	0.4	—	—	—
	9.3	474	13.1	18.6	0.34	54.0	8.4	100	0.4	—	—	—
対照区	8.5	597	13.4	17.5	0.59	29.6	8.3	100	1.4	10	70	20
	8.12	620	14.4	17.6	0.48	36.4	8.8	100	0.8	44	56	0
	8.19	622	14.0	17.9	0.48	37.0	8.9	100	0.4	60	40	0
	8.26	604	15.2	18.1	0.38	47.7	8.7	100	0.6	—	—	—
	9.3	598	12.4	18.4	0.36	51.0	8.5	100	0.8	—	—	—

², 発芽促進処理(シアミド、メリット青、ポリ早期被覆)、着果管理(小房、着果量1600kg/10a程度)、満開期1回処理

表3 オーロラブラックの着果量、果房重の違いが盆前(8/12)の果実品質に及ぼす影響(平成16年)

区	着果量	果房大きさ	果房重 (g)	果粒重 (g)	糖度 (Brix)	着色 (cc)	pH	出荷規格割合(%)		
								赤秀	青秀	優
869kg/10a		小房	550	16.4	19.0	8.9	3.86	86.7	10.0	3.3
		大房	709	16.0	18.6	8.8	3.84	66.7	30.0	3.3
1637kg/10a		小房	540	15.9	18.7	9.2	3.81	77.8	22.2	0.0
		大房	708	16.3	18.7	8.8	3.84	61.9	38.1	0.0
2296kg/10a		小房	547	15.7	17.5	9.0	3.83	53.6	46.4	0.0
		大房	706	15.1	17.7	8.7	3.74	46.9	40.6	12.5

[その他]

試験研究課題・事業名：新品種ブドウの栽培技術の確立

予算区分：県単

研究期間：平成12～16年度

関連情報：岡山農試研究報告第21号「ブドウの新品種オーロラブラックの育成」